

令和元年度 日韓文化交流基金 事業実績

一般会計

1. 自主事業

(1) 第 35 回日韓文化交流基金韓国訪問団
(日程)

令和元年 9 月 17 日(火)	ソウル到着 李泰鎬(イ・テホ)外交部第 2 次官表敬 李洪九(イ・ホング)韓日文化交流基金会長主催歓迎晩餐会
9 月 18 日(水)	ソウルジャパンクラブ役員との朝食懇談会 国際教育院 金英愼(キム・ヨンゴン)院長表敬 第 20 回日韓文化交流基金賞贈呈式 鯨島会長主催レセプション
9 月 19 日(木)	長嶺駐韓国大使主催朝食会 高麗大学校グローバル日本研究院訪問 姜昌一韓日議員連盟会長表敬 日韓文化交流基金フェロースhip関係者との夕食懇談会
9 月 20 日(金)	柳興洙(ユ・フンス)韓日親善協会中央会会長表敬 李成権(イ・ソングォン)氏(知日・知韓家育成事業 OB)との昼食懇談会 帰国

(2) 第 20 回日韓文化交流基金賞
文化及び芸術分野の交流を通じて日韓間の友好親善に寄与した韓国人を表彰するもの。令和元年度の受賞者は下記の 2 名。

鄭夏根(チョン・ハグン) 古穩堂代表

古美術商経営のかたわら、故李方子妃の書画や陶磁器等の作品や関連資料を収集、李方子妃顕彰のため作品展を二度開催。将来的に記念館の建設を企画する等、李方子妃顕彰事業のため尽力。

鄭鉉淑(チョン・ヒョンスク)NPO法人ふくかんねっと 理事長

2000 年より福島において草の根交流を通じた日韓相互理解の増進に尽力。東日本大震災後には、福島と韓国の地方都市との間の大規模な青少年交流事業を 4 年間にわたり実施する等、各種交流事業を通じて震災復興にも大きく貢献。

2. 賛助会員制度

(1) 加入(会費:一口1万円)の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

種別(年会費)	人数/法人数	口数	金額
特別会員(3口以上)	5名	17口	170,000円
個人会員(1口以上)	54名	57口	570,000円
法人会員(5口以上)	2団体	15口	150,000円
計	59名 2団体	—	890,000円

(令和2年3月31日有効会員)

特別会員(五十音順)

小野正昭(3) 金春美(3) 中江新(5) 檜崎正博(3) 渡辺浩(3)

計5名

個人会員(五十音順)

青野正明	朝倉敏夫	浅野豊美	阿部孝哉	安倍誠
飯島渉	石川武敏	磯崎典世	稲葉真岐子	李炯喆
林在圭	内田富夫	及川俊男	大竹洋子	河村建夫
菅野修一	木畑洋一	木宮正史	小林直人	小針進(2)
高麗文康	坂井俊樹	阪田恭代	酒匂康裕	櫻井浩
佐藤俊行	鮫島章男(2)	澤岡泰子	宍戸秀行	柴公也
社会福祉法人陽清 学園柴田昌子	白川豊	杉山長	高田加代子	田中正敬
都恩珍	中尾美知子	中塚明	中山めぐみ	西澤豊
波田野節子	墨の美術館 濱崎道子	日本民芸館館長 深澤直人	福原裕二	藤田昭造
藤本幸夫	堀泰三	前田二生	馬定延	松井貞夫(2)
實生泰介	茂木敏夫	余田幸夫	和田とも美	

計54名

法人会員(五十音順)

学校法人城西大学(10)

和光物産株式会社(5)

計2団体

(2) 会費収入の使途

(i) 【講演会】

令和2年2月26日に、鄭鉉淑(チョン・ヒョンスク)氏(NPO法人ふくかねっと理事長、第20回日韓文化交流基金賞受賞者)による講演会(主題:「地域に根ざ

した日韓交流を続けて 20 年 - ふくかねっとの活動について - 」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となった。

(ii)【学術定期刊行物助成】

当基金学術定期刊行物助成事業の対象刊行物 2 点に対する助成金 (400,000 円) として活用した。

書名	申請団体
『韓国朝鮮の文化と社会 第 18 号』	韓国・朝鮮文化研究会
『現代韓国朝鮮研究 第 19 号』	現代韓国朝鮮学会

3. 外務省からの受託事業

(1)日韓歴史家会議

行事名	開催日	会場
講演会「歴史家の誕生」	令和元年11月8日	ソウル・西江大学校
第19回会議 「海洋/海域と歴史」 参加者：日本側12名 韓国側13名	令和元年11月9日 ～11月10日	ソウル・西江大学校

第 1 特別会計

1. 日韓知的交流事業

(1)助成事業

(i)草の根交流

合計 7 件

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	宗像フェス日韓環境国際交流	宗像フェス CSR 推進実行委員会	令和元年 9 月 20 日～9 月 23 日
2	日韓青年プレオリンピック in TOKYO	社団法人 釜山韓日文化交流協会	令和元年 7 月 26 日～7 月 29 日
3	日韓学生未来会議 (Japan Korea Students Future Forum)	第 14 回日韓学生未来会議	令和元年 8 月 18 日～8 月 23 日
4	日韓のことばを学ぶ中高生交流プログラム—SEOUL でダンス・ダンス・ダンス 2019	公益財団法人 国際文化フォーラム	令和元年 8 月 14 日～8 月 19 日
5	第 5 回日韓・韓日ジュニアフォーラム (第 27 回日韓・韓日フォーラムサイドイベント)	公益財団法人 日本国際交流センター	令和元年 8 月 22 日
6	「日韓交流おまつり 2019 in Seoul」菊の会派遣事業	舞踊集団 菊の会	令和元年 8 月 31～9 月 2 日
7	日本・在日・韓国 高校生フォーラム・ハナ	川崎・富川高校生フォーラム・ハナ実行委員会	令和元年 7 月 29 日～8 月 2 日、

			12 月 22 日～12 月 26 日
--	--	--	---------------------

(ii) 芸術交流

合計 6 件

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	第二回演技集団朗・劇団マシル合同ワークショップ	演技集団 朗	令和元年 7 月 17 日～7 月 24 日
2	チョン・ウォルソン プロデュース公演「愛と自由を求めて」	日韓友情の花束実行委員会	令和元年 9 月 15 日
3	「raprap スピンオフ」創舞国際公演芸術祭参加公演	公益財団法人 北海道演劇財団	令和元年 8 月 22 日～8 月 26 日
4	モモの家の刺繍日記―赤い糸が繋ぐ日韓文化交流	NPO ひいなアクション	令和元年 8 月 21 日～9 月 3 日
5	昭和音楽大学・ソウル市立大学校 日韓大学交流コンサート	学校法人東成学園 昭和音楽大学	令和元年 9 月 19 日～9 月 21 日
6	俳舞 金利恵 俳句を舞う	株式会社青い鳥創業	令和 2 年 1 月 15 日～1 月 16 日

(2) 学術研究者交流 研究者支援コース

(i) 招聘

合計 3 名

No.	氏 名	研究テーマ	受入機関	期 間
1	徐光錫	韓半島系渡来人と古代日本社会研究	金沢大学人間社会学域人文学類	令和元年 5 月 1 日～8 月 31 日
2	金大洋	小樽で発行された文芸雑誌『クラルテ』研究 ―同人小林多喜二の文学を中心に―	北海道大学大学院文学研究科	令和元年 6 月 24 日～8 月 24 日
3	柳吉在	朝鮮半島の平和と統一のための国際協力のあり方	慶應義塾大学韓国研究センター	令和元年 9 月 15 日～令和 2 年 2 月 15 日

(ii) 派遣

合計 2 名

1	本田洋	現代韓国の地方社会における共同活動の創出と生活の場の再編成に関する社会人類学的研究	全北大学校人文大学	令和元年 5 月 1 日～7 月 31 日
2	高賢来	東アジアにおける新自由主義の導入過程: 1970～80 年代米韓関係を中心に	ソウル大学校国際大学院	令和元年 9 月 1 日～令和 2 年 1 月 31 日

(3)学術研究者交流 オピニオンリーダー育成コース

(i)招聘

合計 5 名

No.	氏 名	研究テーマ	協力者在籍機関	期間
1	李貞旼	明治維新の現代的意味と再照明	中央日報日本支局	令和元年 5 月 27 日～ 6 月 25 日
2	鄭原東	韓日関係改善のための各界の世論 主導層(政治界,関係言論界学界)と の面談調査による意見聴取および 改善策模索	東京都市大学メディ ア情報学部社会メデ ィア学科	令和元年 9 月 29 日～ 令和 2 年 2 月 16 日
3	韓在鎬	日韓若年層の交流拡大を通じた相 互発展関係の構築を巡る対策研究	九州大学韓国研究 センター	令和元年 10 月 1 日～ 令和 2 年 1 月 28 日
4	明熙眞	日韓ジャーナリストの相互認識「フ レーム」に対する質的研究-根拠理 論による分析	中日新聞東京本社	令和元年 10 月 14 日 ～令和 2 年 3 月 31 日
5	河銀靜	韓国に投資した日本企業の現況	森・濱田松本法律事 務所	令和元年 12 月 1 日～ 令和 2 年 1 月 4 日

(ii)派遣

合計 2 名

1	坂口裕彦	日韓関係の「復元力」	朝鮮日報社	令和元年 10 月 1 日～ 令和 2 年 2 月 27 日
2	時吉達也	韓国マスメディア研究	世宗研究所日本 研究センター	令和元年 11 月 1 日～ 11 月 30 日

2. 情報広報事業

(1)広報誌

日韓文化交流基金NEWS 90、91、92 号刊行(第 91 号より、これまでの年 4 回発行から、
年 3 回(6 月、10 月、2 月)の発行に変更となった)。

(2)ウェブサイト

実施事業の広報及び情報提供を行うウェブサイトを、11 月 20 日にリニューアルした。これにともな
い、国内で開催される韓国・日韓文化交流関連イベントの紹介を行ってきた「日韓文化交流カレン
ダー」は運営を停止した。

年月		ユーザー数	ページ/ セッション*1	新規訪問の 割合(%)
平成 31 年	4 月	2008	3. 58	59. 33
令和元年	5 月	2546	3. 19	61. 61
	6 月	3226	2. 98	62. 10
	7 月	2638	3. 27	59. 86

	8 月	2440	3.43	63.57
	9 月	2122	3.13	64.28
	10 月	2976	2.88	68.06
	11 月	6262	3.05	65.28
	12 月	5693	3.35	44.68
令和 2 年	1 月	3038	4.16	49.60
	2 月	2121	3.53	57.59
	3 月	1786	3.54	56.33

*1 ページ/セッション: セッション中に表示された平均ページ数。同じページが繰り返し表示された場合も集計される。セッションとは期間内の合計セッション数で、ユーザーがウェブサイトやアプリなどに積極的に関わっている期間を指す。すべての使用状況データ(スクリーンビュー、イベント、e コマースなど)はセッションと関係する。

(3) メールマガジン

基金事業の最新情報、「日韓文化交流カレンダー」上で紹介したイベント情報などを、ウェブ上等から登録した希望者と、賛助会員等を対象に、月 2 回ほどのペースで配信してきた(メールマガジンについては、メールマガジン発行システムの運用停止に伴い、令和元年 12 月 20 日発行分をもって配信を終了した)。終了時点でのメールマガジン登録者(賛助会員以外)数は 1835 名。

配信数

第 325 号(平成 31 年 4 月 12 日) 1898	第 334 号(令和元年 8 月 23 日) 1940
第 326 号(平成 31 年 4 月 20 日) 1802	第 335 号(令和元年 9 月 6 日) 1944
第 327 号(令和元年 5 月 10 日) 1904	第 336 号(令和元年 9 月 27 日) 1947
第 328 号(令和元年 5 月 24 日) 1911	第 337 号(令和元年 10 月 11 日) 1950
第 329 号(令和元年 6 月 7 日) 1918	第 338 号(令和元年 10 月 25 日) 1956
第 330 号(令和元年 6 月 21 日) 1924	第 339 号(令和元年 11 月 22 日) 1965
第 331 号(令和元年 7 月 5 日) 1928	第 340 号(令和元年 12 月 20 日) 1962
第 332 号(令和元年 7 月 19 日) 1931	臨時号(平成 31 年 4 月 23 日) 1901
第 333 号(令和元年 8 月 2 日) 1935	

(4) ツイッター

基金ホームページや「日韓文化交流カレンダー」で更新された情報を登録者に発信している。登録者数は 711 名(令和 2 年 4 月 27 日現在)。

(5) フェイスブック

基金が実施する青少年交流事業の活動の様子などを写真や文章を用いてタイムリーに発信している。登録者数は 764 名(令和 2 年 4 月 27 日現在)。

3. 人的交流事業(教員訪韓事業、中学生訪日・訪韓事業)

(1) 教員訪韓事業

日本の教員を相手国へ派遣し、教育現場の視察、関係者との懇談及び交流を通じ、互いの教育への取組みに接することで、日韓間の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的とする交流事業を実施。JENESYS の派遣事業に社会人が含まれないため本会計

で実施。

合計 1 件 44 名(団長・引率を含む)

No.	団体名	団体数	人数	期間
1	日韓学術文化交流事業訪韓団	1	44	令和元年 8 月 22 日～8 月 31 日

(2) 中学生訪日・訪韓事業

日本と韓国の中学生を相手国へ相互派遣し、相手国の中学生と交流し、互いの伝統文化や社会に接する機会を通じて、日韓間の国民的な友好協力関係の基礎を築くことを目的とする事業。JENESYS 事業に中学生が含まれないため本会計で実施。

(i) 招聘

合計 1 件 30 名(団長・引率を含む)

No.	団体名	団体数	人数	期間
1	韓国青少年訪日団(第 3 団)	1	30	令和元年 10 月 17 日～10 月 23 日

(ii) 派遣

合計 1 件 30 名(団長・引率を含む)

No.	団体名	団体数	人数	期間
1	日本青少年訪韓団(第 3 団)	1	30	令和元年 11 月 10 日～11 月 16 日

第 11 特別会計(JENESYS2019)

日本とアジア大洋州の各国・地域との間で、対外発信力を有し、将来を担う人材を招聘・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について被招聘者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充するための事業。

1. 青少年交流事業

(1) 大学生・教員・高校生等

(i) 招聘

合計 16 団体 472 名(団長・引率を含む)

No.	団体名	団体数	人数	期間
1	日韓学術文化交流事業訪日団(第 1～2 団)	2	79	令和元年 6 月 5 日～6 月 14 日
2	韓国大学生訪日団(第 1～2 団)	2	79	令和元年 6 月 26 日～7 月 5 日
3	韓国青年訪日団(第 1 団)	1	36	令和元年 7 月 10 日～7 月 19 日
4	韓国青年訪日団(第 2 団)	1	28	令和元年 7 月 24 日～8 月 2 日
5	韓国大学生訪日団	1	30	令和元年 9 月 23 日～10 月 2 日
6	韓国青年訪日団(第 3 団)	1	11	令和元年 9 月 26 日～10 月 2 日
7	韓国青少年訪日団(第 1～2 団)	2	70	令和元年 10 月 17 日～10 月 23 日
8	アジア国際子ども映画祭参加訪日団	1	7	令和元年 12 月 3 日～12 月 9 日
9	韓国青年訪日団(第 4～5 団)	2	72	令和 2 年 1 月 29 日～2 月 7 日
10	韓国青年訪日団(第 6 団)	1	12*	令和 2 年 2 月 12 日～2 月 21 日
11	韓国青年訪日団(第 7～8 団)	2	48*	令和 2 年 2 月 19 日～2 月 28 日

*令和 2 年 2 月実施の韓国青年訪日団(第 6 団)は当初 31 名、同(第 7～8 団)は当初 60 名が参加の予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりキャンセルが発生、減員となった。

*令和 2 年 2 月に実施予定だった韓国大学生訪日団(第 3 団:参加予定者 62 名)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施取りやめとなった。

(ii)派遣 合計 4 団体 118 名(団長・引率を含む)

No.	団体名	団体数	人数	期間
1	大学生訪韓団(スポーツ交流)	1	18	令和元年 8 月 28 日～9 月 2 日
2	大学生訪韓団	1	30	令和元年 8 月 28 日～9 月 6 日
3	日本青少年訪韓団(第 1～2 団)	2	70	令和元年 11 月 10 日～11 月 16 日

*令和 2 年 3 月に実施予定だった大学生訪韓団(第 1～2 団:参加予定者合計 80 名)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施取りやめとなった。

(2)企画競争公募事業

JENESY2019 の趣旨に沿った事業を計画・立案、実施する団体を公募し、審査を経て実施団体を選定した。

(i)招聘 合計 1 件 12 名(団長・引率を含む)

No.	事業名 (実施団体名)	人数	期間
1	静岡県朝鮮通信使友好交流事業 (静岡県朝鮮通信使友好交流実行委員会)	12	令和 2 年 1 月 6 日～1 月 15 日

(ii)派遣 合計 1 件 18 名(団長・引率を含む)

No.	事業名 (実施団体名)	人数	期間
1	第 26 回日韓高校生交流キャンプ (一般社団法人日韓経済協会)	18	令和元年 8 月 5 日～8 月 9 日

(了)